

## 第4章 重点事業の実績と評価

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和元年度 目標	令和元年度実績	評価	検証・分析
基 2-1 No.4	教育・保育施設同士の連携強化と積極的交流	子育て推進課	一貫した就学前教育・保育が行えるように、教育・保育施設同士の連携や積極的な交流を図る。	地域における就学前教育施設間の交流会開催	充実	【認定こども園・保育所実施分】延べ58回 ・就学前施設との交流 15回 ・市立幼稚園との交流 27回 ・若手保育士の幼稚園1日体験 4回 ・市立幼稚園教諭の認定こども園・保育所3歳児保育体験 12回	A	【量的評価】 平成30年度より天候、年度末は新型コロナウイルス感染症拡大防止等で中止になったこともあり、回数は減っている。（子育て推進課）  昨年度より、やや回数が減少したが、幼稚園教諭・保育所・認定こども園にて参加実習する機会が増え学び合う機会となった。（学校教育課）
		学校教育課				【幼稚園実施分】延べ73回 ・市立保育所との交流 22回 ・就学前施設との交流 12回 ・小学校区内での就学前施設間交流 20回 ・幼稚園にて保育士の1日体験 4回 ・幼稚園教諭の市立認定こども園・保育所1日実習 3回 ・幼稚園教諭の市立認定こども園・保育所3歳児参加実習 12回		【質的評価（課題と対応策）】 ・近隣の就学前施設同士が交流する機会を持つことで、子ども同士が知り合いになり、スムーズな就学にもつながった。 ・保育所・認定こども園と幼稚園の職員が交流することで、相互の教育・保育について理解を深めた。（子育て推進課）  就学前教育・保育施設同士の交流では、小学校区内の施設間交流が定着した。今後は小学校区ごとに交流内容の工夫を行う。幼稚園教諭が保育所等で実習をする機会が増え、低年齢保育について具体的に学ぶことができた。（学校教育課）
基 2-1 No.5	幼稚園教諭、保育士の人材育成と資質の向上	子育て推進課	幼稚園教諭、保育士、保育教諭等としての資質や指導力の向上のため、研修、実習等を通じた人材育成の充実を図る。	就学前施設における合同研修会の参加者数	407人	【認定こども園・保育所実施分】延べ参加者数 931人 ・子育て推進課主催研修 11回 （市立及び私立職員、認可外施設職員延べ279人） ・認定こども園・保育所主催研修24回 （市立及び私立職員延べ293人） ・保育士等キャリアアップ研修 6回 （市立及び私立職員、認可外施設職員延べ359人）	A	【量的評価】 研修会の機会を引き続き多く持たせたことで、研修会への参加者も増えている。研修会には、私立園、認可外施設からの参加者も増えてきている。（子育て推進課）  年度当初に年間計画を立て、就学前教育・保育施設に広く周知したことで、私立園など幅広い参加が得られるようになった。（学校教育課）
		学校教育課				【市立幼稚園実施分】延べ参加者数 532人 ・就学前教育研修会 4回（延べ120人） ・保幼小合同連絡会 1回（60人） ・幼稚園教育研究会 5回（延べ136人） ・特別支援教育研究会 3回（延べ153人） ・教育委員会指定幼稚園教育研究会 1回（63人）		【質的評価（課題と対応策）】 芦屋市の就学前教育・保育の質を上げていくために引き続き研修会を行い、私立園や認可外施設へも呼びかけて共に学びあう機会を持ちたい。（子育て推進課）  年度当初に年間計画を立て広く周知したことで参加者が増え、保育理論や保育実技を共に学ぶ機会となった。今後は市立幼稚園にて試験的に実施される3歳児保育に向けて、幼稚園教諭が研修する機会をもち、さらに質の高い幼児教育をめざす。（学校教育課）

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和元年度目標	令和元年度実績	評価	検証・分析
基 3-1 No.1	地域における子育て支援活動	学校教育課	あしや市民活動センターや幼稚園、保育所等の公共施設を利用し、子育ての情報交換・団体間交流・ネットワーク化を図り、地域における子育て支援活動の充実を図る。	公立の全幼稚園での未就園児とその保護者に対する施設開放実施回数	304回	開催回数 974回 <ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児交流会 延べ78回（延べ729組）</li> <li>未就園児園庭開放 延べ125回（延べ916組）</li> <li>園庭開放 延べ545回（延べ15631組）</li> <li>3歳児親子ひろば 延べ206回（延べ2143組）</li> <li>オープンスクール（各幼稚園2～3回開催）延べ20回（延べ589組）</li> </ul>	A	<p>【量的評価】</p> <p>未就園児交流会やオープンスクールの実施回数が増え、幼稚園が未就園児親子の遊び場となった。3歳児親子ひろばは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施回数はやや減少した。</p> <p>【質的評価（課題と対応策）】</p> <p>未就園児とその保護者が集うと共に、在園児とのふれあいを行うことで、保護者が子育てに見通しをもち、気軽に子育て相談できる機会となった。昨年度末には新型コロナ感染拡大防止のため、実施回数が減少したが、今後は園庭開放の機会を増やす等、さらなる子育て支援の充実を図る。</p>
基 3-1 No.3	公共施設の有効活用	子育て推進課	公的施設を子どもの居場所として有効活用できるようにする。	子どもが利用できる公共施設の周知	充実	<p>子育てサポートブック発行：3,000部</p> <p>子育てアプリ配信数：およそ月160件</p> <p>子育てアプリリーフレット発行：2,000部</p> <p>子育てアプリについて、全庁的に周知し、活用促進を図った。また、市内の保育所・幼稚園・子育てセンター等で実施している、主に未就学児対象のイベントや講座に関する情報発信を行った。</p>	B	<p>【量的評価】</p> <p>市内の子育て施設や子育て支援サービスの情報を集約した子育てサポートブック「わくわく子育て」を平成30年度と同数発行して市内の各公共施設に配布した。子育てアプリの月ごとの配信数は、平成30年度と同程度であり、年間配信数は15件増えた。（政策係）</p> <p>職員による点検に加え、専門業者により95公園447基の遊具を点検し、安全性を確保できるよう努めた。（道路・公園課）</p>
		道路・公園課 （旧公園緑地課）		子育て世帯又は子ども自身の公園ニーズを把握し、その結果を踏まえた公園整備の実施	充実	公園施設が安全・安心に利用できるよう、樹木及び遊具等の適正な維持管理を行った。	B	<p>【質的評価（課題と対応策）】</p> <p>保護者向けの情報発信手段として、スマートフォンで利用可能な子育てアプリが特に有効である。市内の公共施設で定期的に開催される親子で集える事業や園庭開放等についてはイベント欄で確認でき、その他随時発信される情報はお知らせ欄で確認できるようにして子どもの居場所の発信を行っている。</p> <p>また、配信を知らせるプッシュ通知設定を必ず行い、より多くの登録者に情報が行きわたるよう工夫した。（政策係）</p> <p>職員による点検や利用者からの要望を出来る限り速やかに反映できるようハード面での維持管理を実施する共に、要望に応えることが出来ない場合でもソフト面で改善できるよう努めた。（道路・公園課）</p>

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和元年度 目標	令和元年度実績	評価	検証・分析
基 3-2 No.2	犯罪等、子どもを取り巻く様々な危険性についての教育、啓発	子育て推進課	家庭、学校、地域及び関係機関が連携を図り、子どもや保護者に対して、様々な犯罪の危険性についての教育、啓発、情報提供等を行う。	子ども向けの防犯啓発リーフレット発行（新規事業）	実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者情報を市内就学前施設に知らせ、防犯を促した。</li> <li>定期的に防犯訓練を行い子どもたちに危険から身を守る方法を指導した。</li> <li>防犯訓練を市立認定こども園、保育所で年に2、3回実施した。</li> <li>交通安全教室を行い、芦屋警察の方より、交通ルール等について教育、啓発を行った。</li> <li>交通安全教室は市立認定こども園、各保育所年2回ずつ行った。</li> </ul>	A	<p>【量的評価】</p> <p>定期的に防犯訓練や交通安全教室を行うことができた。（子育て推進課）</p> <p>交通安全教室や防犯教室を定期的に開催し、幼児児童生徒の安全や防犯への意識づけを行うことができた。生徒指導連絡会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各1回減少した。（学校教育課）</p>
		学校教育課		警察との連携による防犯講習会の実施（新規事業）			<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校2年生を対象に防犯教室（登下校安全教室）を年間8回（延べ745名参加）実施</li> <li>幼稚園、小学校にて交通安全教室、小中学校にて自転車教室を延べ35回実施（延べ3778名参加）</li> <li>芦屋市生徒指導連絡協議会を10回、芦屋市・神戸市生徒指導連絡協議会1回開催し、芦屋市・神戸市中学校生徒指導連絡協議会では、神戸市東灘区と連携し、生徒の問題行動の未然防止・早期解決を図った。</li> </ul>	B
基 3-2 No.4	交通安全の意識向上	建設総務課	子どもの交通安全を確保するため、不法駐輪及び不法駐車をなくし、自転車マナーを守るよう啓発活動を継続する。また「交通安全教室」や「出前講座」等の実施により、交通安全に対する意識向上を図る。	市内で起こる子どもの交通事故件数	14件	<p>子ども（15歳以下）の市内での事故件数：22件（平成30年度：15件）</p> <p>交通安全教室の開催：61回 幼稚園15回、保育所25回、 小学校16回、中学校3回、その他2回 （平成30年度：66回）</p>	B	<p>【量的評価】</p> <p>子どもの事故件数は、昨年度より増加した。新型コロナウイルス等の影響もあり、交通安全教室の実施件数は昨年度より減少した。</p> <p>【質的評価（課題と対応策）】</p> <p>これまで減少傾向にあった子どもの事故件数が増加してしまった。今後は教室や啓発の内容を見直すなどとして、子どもたちの交通安全意識のさらなる向上を図る。</p>